衆国との間に対立軸が存在した．またG77の途上国グループは，グループ内の統一意見をまとめるために非公式会合を断続的に開催するが，国情に応じて多様な意見があり，合意文章に対する統一的見解が集約できない状況が存在した．

非公式協議は，本会議の副議長であるスイスのオリビエ・シャビー副議長のもとで進められた．会議での議論の進め方は，「貧困に焦点をあてた人口，開発とHIV/AIDSに関する決議案」文書を冒頭からセンテンスごとに議長が読み上げ，それに対して各国代表，EU代表，G77代表が文書表現に修正意見を付けるかたちで，文書の検討が行われた．そこでは，英語表現や言い回しの修正から，アメリカ合衆国のように「国際人口開発会議の行動計画」という文言に“中絶を正当化することを意味しない"を付加するよう主張等があり，自国の主張に沿った文書への修正が逐次求められた．

合意文書の検討は，それぞれの文書について数回行われ，会議最終日の8日を迎えたが，合意には至らなかった．最終日の本会議では，アメリカ合衆国は，とくに中絶をめぐるアメリカ政府の見解を報告書に記録として残すことを主張し，またニカラグア代表などの中米の数カ国も，それぞれの国の中絶問題に対する解釈について自国の考え方を主張した．一方EU加盟国を代表してルクセンブルグ代表は，国連人口開発会議（ICPD）の行動計画を再確認し，その実現によりミレニアム開発目標を達成する必要性を訴えた．しかしながら会議は議長のサスペンド（中断）の宣言によって本会議の日程を終了した．

その後，4月14日に非公式協議が国連本部で行われ，アメリカ政府等のコンディショナルステートメントを付加して，第38回国連人口開発委員会会議報告が社会経済理事会に報告され了承された．

（高橋重郷記）

ウィメンズ・ワールズ2005年：第9回国際学際的女性会議
(Women's Worlds 2005: International Interdisciplinary Congress on Women)

2005年6月19日～24日，韓国・ソウルの梨花女子大学において，第9回国際学術的女性会議が開かれた．3年置きに開催されるこの会議が，アジアで開かれたのは今回が初めてである．会議の規模は大きく，世界70カ国から3,200人以上の参加があり，530のセッションが設けられていた．日本からも，ジェンダー・女性学関係の研究者・活動家が多数参加していた．興味深いセッションが，いくつ身体があっても足らないくらい多数行われ，その内容も広範囲に渡るため，まとめを書くことは不可能であるが，当研究所からは，小島宏国際関係部長が参加し，「ジェンダーと家族―全国調査の結果から」というセッションで，日本，韓国，台湾における子どもの性別選好に関する報告をされていた．連日，朝8：30からプレミナリー・セッションがあり，暴力・不寛容と平和の文化，グローバル化・経済的価値・貧困，国家・健康・環境のパラダイム変換，女性のリーダーシップなどのテーマが取り上げられていた．

他の報告者が不参加になったため，セッションがキャンセルになってしまい，報告できなかった日本からの参加者もいたというハプニングも耳にしたが，全体としては，非常によく組織された会議であった．このような大規模の会議を成功に終わらせる韓国のオーガナイザー達のパワーとコーディネーションのよさ，ボランティアの大学生達の働きぶりと態度のすばらしさには，参加者のほとんどが感謝感激していた．3年後の2008年会議は，スペインのマドリッドで開催されることになっている．なお，会議のウェブサイト（http://www.ww05.org/）には，プログラムだけでなく，閉会式でも放映された会議のビデオ・クリッピングや学生が編集し毎朝配布された会議の新聞なども掲載されているので，ご興味のある方は参照されたい．

（釜野さおり記）